

オンラインを活用した子どもの余暇支援・学習支援の取り組み ～緊急事態宣言時における余暇支援のカタチ～

1. オンライン学童保育

年 月 日：2020年5月初旬から8月下旬（主に緊急事態宣言時）に計22回実施

活動場所：オンライン（大学生・児童共に自宅から接続）

活動内容：緊急事態宣言下において、子どもたちは学校や図書館、児童館などのさまざまな場所へのアクセスが制限された。放課後に活動する場所や機会を奪われ、子どもたちは社会から孤立した状況に陥った。本取組の内容は、オンライン会議システム「ZOOM」を活用し、子どもと大学生が自宅にしながら、みんなで一緒に様々なアクティビティをおこなうというものである。これまでに実施したアクティビティの内容は、絵しりとり、ジェスチャーゲーム、すごろく、おうちで借り物競争、工作、お片づけ教室、クッキング、クイズ大会、国際交流などがある。毎回のアクティビティを企画・実施しているのは教育学部生（主に1年生）10数名である。本校では、緊急事態宣言が出されて以降、原則として登校や集会が禁止されていることから、打合せや準備、反省会なども含めて全てオンラインでおこなってきた。

参加者：延べ171名の児童の参加があった。山口県や東京都、埼玉県、神奈川県、大阪府、京都府、北海道、愛知県、オーストラリアなど、国内外の児童に利用されている。事後アンケートでは、児童や保護者の満足度はほぼ100%であり、リピーターが大半を占める。

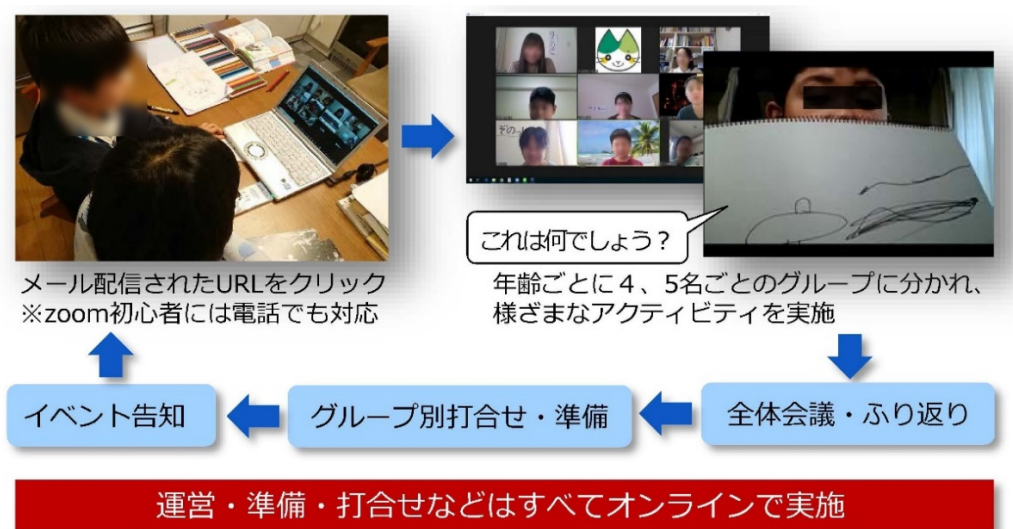


図1 実施までの流れ

(別紙1)



絵しりとり



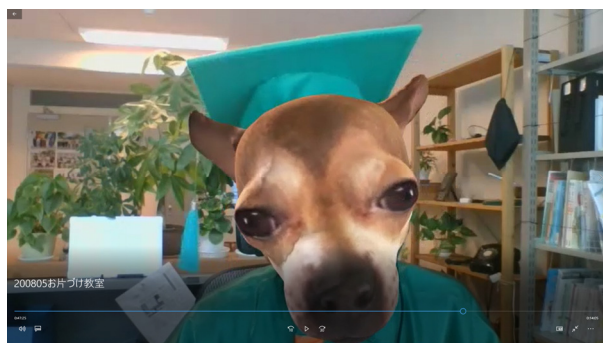
すごろく



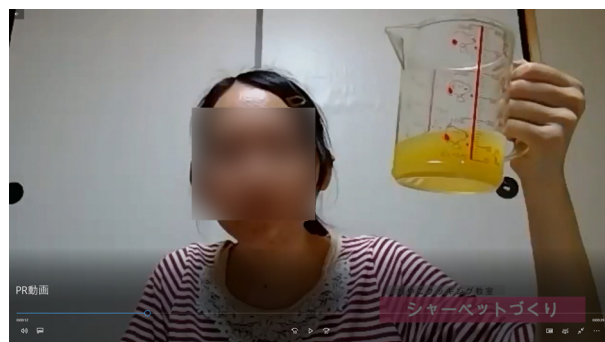
おうちで借り物競争



工作



お片づけ教室



オンラインクッキング



運動会(パプリカダンスなど)



国際交流

図2 オンライン学童保育の様子

(別紙 1)

2. 昼休みオンライン・プレイルーム

年 月 日: 2021 年 5 月中旬(緊急事態宣言時)に計 2 回実施

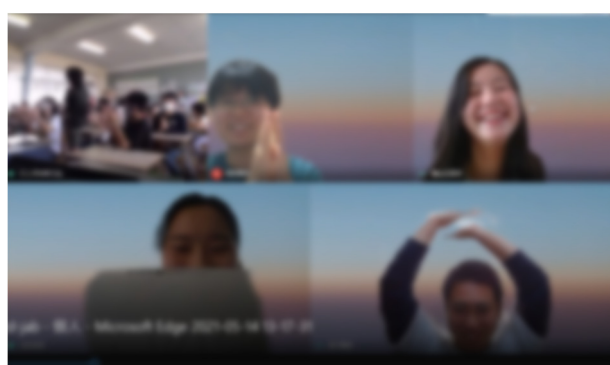
活動場所: オンライン(久留米市立 A 小学校5年生クラスの教室、大学生の自宅)

活動内容: 2021 年 5 月時点において、福岡県久留米市の小学校では、新型コロナウイルス感染拡大を防止するために、昼休みに校庭や教室で児童がクラスメイト等と交流することを制限し、原則として児童机に着席し、本を読むなどの活動をするように指導していた。担当教諭から多くの児童が退屈しているという話を聞き、本活動を実施することとした。活動内容は、小学校の教室と大学生の自宅(当時、大学も登校規制がかかっていた)をオンラインで接続し、地域の文化や方言などをテーマとしたクイズなどを行った。

参 加 者: 小学校の児童 70 名(延べ人数)



小学校側



大学側

図 3 昼休みオンライン・プレイルームの様子

メディア等での掲載歴

1. 中国新聞社: オンラインで学童保育 山口大生ボランティア、画面越し学びやダンス, 中国新聞朝刊, 2020 年 5 月 31 日
2. テレビ山口: [学童保育] 学生の学び 新たな取り組み, tys ニュースタイム, 2020 年 6 月 9 日
3. 文部科学省: 【山口大学】オンライン学童保育「大学生とおうちで遊ぼう!」、国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する取組状況についてーVol.3、2020 年 12 月 10 日

(別紙1)

山口大学教育学部小学校総合選修による

オンラインを活用した子どもの余暇支援・学習支援の取り組み ～post コロナ時代を見据えた新しい教育のカタチ～

1. 小学校における遠隔授業

年 月 日：2020 年 12 月初旬と 2021 年 7 月初旬に計 2 回実施

活動場所：久留米市立A小学校の教室、大学の研究室

活動内容：オンライン学童保育等で培った技術や知識を生かして、大学生がオンラインを活用した授業を企画・実施した。実施された内容は、以下の2つである

1) 日本とオーストラリアの小学校による遠隔合同授業(総合的な学習の時間 5 年生:3 時間):

- ・1 時間目に日本とオーストラリアの小学生がそれぞれに SDGs をテーマに身近な問題の解決方法を検討
- ・2 時間目に自分たちのアイデアを英語または日本語で発表し、コメントする練習
- ・3 時間目に双方の教室をオンラインで接続し、合同で発表会を行った。

2) 調べ学習の発表会にコメンテーターとして参加(国語 5 年生:1 時間)

このクラスでは、国語の授業の一環として地域のことを調べ、その成果を報告書にまとめるという学習を行っていた。大学生はその報告会にコメンテーターとして参加し、児童の報告それぞれについて批評を行った。

参 加 者：小学校の児童約 130 名(延べ人数)



海外の小学校との合同授業



調べ学習の発表会にコメンテーターとして参加

2. 高等学校における遠隔授業

年 月 日：2020 年 12 月初旬から 2021 年 1 月下旬に計 6 回実施

活動場所：山口県立B高等学校の教室、大学の研究室

活動内容：近年、学校教育においては外部人材を積極的に活用することにより、それぞれの授業による学びをより深化させることが求められている。しかしながら、山口県でも特に郊外にある学校園では、立地的な事情等により、外部から授業内容に即した人材を学校まで招くことが難しい場合も多い。そこで、本活動では、大学生がそれぞれの人的ネットワークを生かして、授業の各題材に即した専門家などに協力を依頼し、オンラインを活用した遠隔授業を企画・実施した。

(別紙 1)

実践された内容としては、大学生の下宿のオンライン見学会(住まいの学習)や鹿児島県の専門家を招いた防災教育、韓国在住の大学生をゲストに招いた食文化の学習、大学教員による栄養学の授業などがある。

参 加 者： 高等学校の生徒約 200 名(延べ人数)



大学生の下宿のオンライン見学会(家庭科)



鹿児島県の専門家を招いた防災教育